

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

# 東京教師養成塾通信

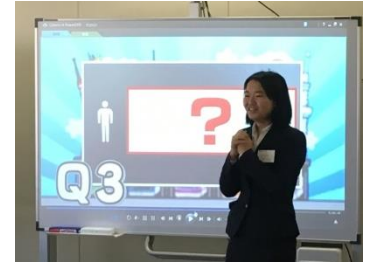
発行日 平成 31 年 1 月 12 日  
＜第 8 号＞  
発行元 東京都教職員研修センター  
研修部教育開発課  
電話 03-5802-0318

## ●第 17 回講座「英語④」「東京都オリンピック・パラリンピック教育の推進について」

平成 30 年 10 月 20 日（土）に、外国語活動・外国語科の指導の基礎を身に付けること及び、オリンピック・パラリンピック教育の目的や内容を理解することをねらいに、第 17 回講座を行いました。

午前中の英語に関する講座④では、塾生が東京都の独自英語教材である「Welcome to Tokyo」を使った模擬授業を行いました。今回は、「5 昔遊びのやり方を教えよう！」「7 観光案内をしよう！」の内容を扱いました。塾生は、児童役ができるだけ発話するようにペアワーク等を取り入れたり、映像教材を効果的に活用したりと、工夫した授業づくりに取り組んでいました。塾生にとって、外国語活動・外国語科の授業づくりの視点を明確にもち、具体的な指導方法を深く考える機会となりました。

午後からは、「東京都オリンピック・パラリンピック教育の推進について」をテーマに、教育庁指導部 齋藤 一裕 主任指導主事が、オリンピック・パラリンピックの目標と学校教育目標との関係や、オリンピック・パラリンピック教育のポイントについて講義を行いました。講義を受講した塾生は、児童・生徒の学びの可能性を拓けるといった視点から、子供たちだけではなく、家庭・地域社会を巻き込んだ取組を行うことや、ボランティアマインド及び障害者理解を形成していくことなど、レガシーにつながるオリンピック・パラリンピック教育を考えていく重要性について、改めて認識を深めていました。



－模擬授業の様子－



－オリンピック・パラリンピック教育についての意見交換の様子－

### 【塾生の感想より】

- ・模擬授業を通して外国語活動・外国語科の授業づくりのイメージをもつことできた。特に、児童にとって分かりやすく、スムーズに次の学習活動につなげることができるような発問に配慮することが重要であると実感できた。
- ・オリンピック・パラリンピックが単に競技の世界一を決めるだけのものではなく、国際教育やボランティアマインド、さらには社会的変化に関わる多くのことに触れ、学ぶことができる場であることを学んだ。東京オリンピック・パラリンピック競技大会から、子供に何を学ばせたいかについて、教師自らが具体化し、教育活動につなげていく必要があると感じた。
- ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとして、子供たちに何を残すのかを考え、実践することが教師としてのレガシーであると学んだ。常に何ができるのかを考えながら授業実践していきたい。

## ●第 18 回講座「東京都英語村（TGG）での実践演習（英語に関する講座⑤⑥）」

平成 30 年 11 月 3 日（土）に、外国語活動・外国語科の指導や校外学習の運営に対する見通しをもち、自身の実践に生かすことをねらいとして、東京都英語村（TGG）での体験活動を通して学ぶ講座を行いました。TGG では、一つの班につき 1 名のイングリッシュ・スピーカー（エージェント）が付き、塾生はオール・イングリッシュの環境を体験することができました。

今年度の英語に関する講座は今回が最終回ということもあり、これまでの英語に関する講座における学びを振り返りながら受講した塾生は、自身の英語力の向上のみならず、児童・生徒が英語を使用する楽しさや必要性を体感できるような学習環境の在り方など、英語教育に関する実践的な指導力を高めることができました。



## ◆ 授業づくりのポイント⑦ー授業力向上に向けた取組ー ◆

東京教師養成塾教授 小林 政雄

平成 30 年度第 15 期東京教師養成塾もまとめの時期となりました。塾生はこれまでの特別教育実習で、授業実践を通じて多くの方の御指導を受けながら、授業力の向上に努めてきました。これまでに身に付けた授業力を基に、いよいよそれぞれの立場でプロの教師として子供たちの前に立つこととなります。教師としてのスタートライン、塾生は本当の授業力を問われることとなります。

ところで、「学習や生活の基盤としての学級経営」と「学習指導と関連付けた生徒指導」の充実を図ることが、小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）総則にこれまで以上に詳細に記載されています。このことは「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のために、これまで以上に学習指導と学級経営・生徒指導との緊密な連携、あるいは一体化を重視していることを示しています。このことを踏まえて、授業力と言われる様々な要素の中で「最も重要なことは？」と尋ねられたら、私ならズバリ「指示の出し方」と答えます。どんなに教材研究を深め、指導案を練り、よい教材・教具を準備しても、次の 2 点ができなければ、授業は進みません。それは、「教師の言っていることが子供に分かる」こと、「次に何をするのが全員に明確になっている」ことです。

「教科書を出して、○ページを開けて、大切だと思うところに赤線を引きます。できたら隣の人とどこに線を引いたかを確かめます。」（ざわざわ）「先生、何ページですか？」…教室でよく見かける光景です。教師がどんなによいことを考え、準備しても、結局はその内容を子供に伝えられなければ効果はありません。これができなければ、授業に限らず学級経営も行き詰ってしまいます。それならば、きちんと話を聴くことのできる子供を育てるために生活指導を厳しくし、学級を整えてから授業をすればよいのではないか。そうではありません。上述したように、学習指導と学級経営・生活指導は一体化してこそ、「主体的・対話的で深い学び」に向かう授業ができるのです。指示の出し方【一つのこと⇒確認・評価⇒次の指示】を身に付けることは、意識していかないとなかなかできません。「たかが指示、されど指示」が実感できたときに授業力向上への第一歩が踏み出せます。

## ◆ 教師として求められること ◆

東京教師養成塾教授 信方 壽幸

教師という仕事は、多忙極まりなく、人を育てるという責任の重い仕事です。また、教師という職業自体が社会的に特に高い人格・識見を求められる性質のものであるため、生半可な気持ちでは務まりません。

それでは、どのような教師になればよいのでしょうか。ここでは、優秀な教師に見られる特徴を挙げて、教師として求められることを述べていきたいと思います。

- ◆優秀な教師は、全ての児童・生徒に大きな期待を寄せている
- ◆優秀な教師は、親しみやすく、児童・生徒との間に人間同士のつながりを築いている
- ◆優秀な教師は、独りよがりではなく、他の教師や児童・生徒の意見にも耳を傾ける
- ◆優秀な教師は、準備や計画がしっかりしているので、時間どおりに授業が終わる
- ◆優秀な教師は、児童・生徒の意欲を高める授業をするので、笑顔にあふれ、質問が活発に出る
- ◆優秀な教師は、意味のない雑談はせず、理解を深めるための雑談をする
- ◆優秀な教師は、担当教科や領域等のエキスパートであり、常に知識を高めている
- ◆優秀な教師は、自分のやり方が絶対と思わず、常に反省を忘れず、授業改善に努めている
- ◆優秀な教師は、専門分野以外の教養も高く、社会的経験が豊かである
- ◆優秀な教師は、児童・生徒の家庭や関係諸機関との連絡を密にし、頻繁に保護者や職員と対話する
- ◆優秀な教師は、辛く、人が嫌がる仕事を、自己を磨くために率先して担当する

このように、優秀な教師は多くの長所をもっていますが、そこには、現状に満足せず、常に自分を高めようと努力する姿がうかがえます。教育基本法第 9 条には、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」とあります。この法令の意味を深く理解し、受け身ではなく、主体的に自分を高め、激しく変化する時代に柔軟に対応できる教師こそ、これからの時代が求めている教師なのです。